



6月6日(月)

2022年(令和4年)

発行所：東京都千代田区一ツ橋1-1-1
〒100-8051 電話(03)3212-0321
毎日新聞東京本社



東京都港区立
高松中学校

自然災害から発電へ

現在、日本のエネルギー自給率は1割程度しかない。そんな日本が、エネルギー大国へと変化する技術が今、NTTによって研究されている。

情報と今の災害

NTTは、東西に分かれユニバーサルサービスと言って全国どこでも一律のサービスを提供している。他にも携帯電話事業のNTTドコモなどがある。例えば、日本の最近の災害は、2020年7月に日本各地の集中豪雨があった。他にも、21年7月に伊豆山土砂災害、22年3月に福島県沖地震などがあった。このような災害についても研究している。

(栗林宙眺)

歩み

1952年、戦後復興途中だった日本は世界から設備や技術に遅れをとっていた。

NTT 技術革新の歴史

- ・1968年 日本初の自動ダイヤル交換式の「ポケットベルサービス」を開始。
- ・1987年 日本初の持ち運べる携帯電話サービスを開始。
- ・1988年 世界初のISDN(商用サービス総合デジタル網)サービス提供を開始。
- ・2001年 日本初の一般家庭への光ファイバーの提供を開始。

た中で、日本電信電話公社

(電電)が誕生した。国営とし

て始まった電電は、85年の

行政改革に伴い民営化され、

NTT (Nippon Telegraph and

Telephone Corporation) と社

名を変えた。130年以上

前に日本初の電話サービス

事業を開始して以来、数々

の新たな技術を生み出し日

本社会に多くの影響を与え

てきた。左上の資料はNT

T技術革新の歴史である。

現在は本来の電話サービ

ス事業にとどまらず、地球

環境保護や災害対策、エネ

ルギー開発分野へ活動の場

を広げ、持続可能な社会を

目指し、新たな技術の研究

している。(細野仁湖)

技術で未来明るく

多くの人が、落雷に対し

てマイナスなイメージを

持っているだろう。NTT

はこのイメージを技術で覆

そうとしている。具体的に

は、ドローンを利用して落

雷を安全な場所に導く技術

や落雷を未然に防ぐ技術、

雷エネルギーを貯蔵する技

術などだ。これらの技術に

は、落雷観測と発生位置の

正確な予測技術が必要にな

るそうだ。着実に実現に向

かっており、実現できれば、

マイナスなイメージが大き

く減る。更には電力に不安

のあるこの世界で、人々を

救う役割を担うことができ

るだろう。このような、発

想の転換や技術の進歩で、

世界の未来が少し明るくな

るような気がした。

(赤間かれん)

台風がエネルギーへ

世界では今、地球温暖化

の原因の一つ、CO2の削

減に取り組んでいる。そん

なCO2の排出量を減らす

ため、CO2が出ない風力

発電や太陽光発電が世界中

で今行われている。だが、

実は日本では風力発電、太

陽光発電などの発電はあま

り活発に行われていない。

山が多く、必要な発電所が

建てにくいからだ。NT

Tでは、一般的に言われて

いる風力発電などではなく、

台風などの自然災害から発

電のエネルギーを得ようと

研究をしている。しかしし

たら将来、あなたのスマホ

のエネルギーが台風からの

ものとなる日が来るかもし

れない。(山下芳佳)



この国の未来の為に

技術と今後の日本

災害は落雷や台風だけで

はない。日本では多くの災

害が起こっている。さらに、

石油や石炭など多くのエネ

ルギー源を輸入に頼ってい

るのが現状だ。NTTは、

災害をエネルギーとして利

用できるようにする研究を

している。

これからの日本は輸入に

頼らず自らの国でエネル

ギーを作ることができるよ

うになるかもしれない。そ

れにより、災害大国である

日本がエネルギー大国とな

る未来が来るかもしれない。

(コシヤ ダニエラ)